

## 「在沖縄米海兵隊の矢臼別移転実弾演習に反対する申し入れ」を実施



連合北海道と道農民連盟で構成する『沖縄米軍実弾演習北海道移転反対対策本部』は、在沖縄米海兵隊が10月22日から11月2日まで矢臼別演習場で実弾移転演習を行うことに対し、10月8日に北海道防衛局、10月14日北海道に対して訓練中止を申し入れた。また、在札幌米国領事館へは新型コロナウイルス感染の観点から書面となった。

この訓練は沖縄の県道を封鎖して実施されてきた実弾射撃訓練を、負担軽減として、1997年から全国5カ所に移転実施されてきたもので、今回実施されれば19回目となる。

申し入れでは、沖縄の訓練と同質・同量との約束が守られず、夜間訓練が実施されてきたこと、また、北方領土に隣接する矢臼別での実弾演習は領土問題解決との国民の悲願を大きく後退させると指摘。沖縄の負担軽減も疑問があり、こうした状況の解決する唯一の

道は「在日米軍基地の整理・縮小」と「日米地位協定の抜本見直し」であるとして、訓練実施は断じて認められないと申し入れた。

これに対し、道防衛局 千葉基地対策室長は、「沖縄の負担軽減、国防および日米安保条約の目的を達成するための部隊の練度維持、即応維持の観点からも必要と考える。米軍に対して綱紀粛正と万全なコロナの対策を求めた。引き続き関係自治体の理解と協力を得て実施していきたい。」旨の回答。

北海道 清水危機対策課長からは「道民の安全・安心を第一に考えており、一昨日、道及び関係4町で構成している『矢臼別演習場関係機関連絡会議』として、夜間訓練の中止と米軍の滞在中における規律維持等を防衛局長に要請した。地位協定については在日米軍基地等を有する15都道府県で構成する『渉外知事会』を通じ外務省に働きかけている。」旨の回答があった。また在札幌米国領事館からは「大使館を通じて本国に伝える」旨の回答があった。



これらの回答について対策本部は、生活道路である県道を封鎖しての実弾射撃訓練自体が考えられない無謀な訓練であり、そのような訓練は移転ではなく、もともと止めさせるべきものだと指摘し、改めて訓練中止を申し入れた。

今回の移転訓練に対し『沖縄米軍実弾演習北海道移転反対対策本部』は、新型コロナウイルス感染予防から、現地での集会・デモを行わないが、今後も矢臼別移転実弾演習に反対し、在日米軍の整理縮小と日米地位協定の抜本見直しの闘いを更に広げていく。